

沖縄戦集団自決の証言記録の テキストマイニングによる分析

2009年11月1日

和光大学伊藤武彦研究室

小林溪音

問題1： 沖縄戦について

- 荒井(2001)によると、沖縄の地上戦は太平洋戦争末期、日米の戦力の隔絶する中で県民多数を巻き込んで戦われた凄惨な戦闘であった。沖縄には50万近い県民が住んでいたが、沖縄戦で住民の三人に一人が死んだと言われている。

問題2： 戦時の慶良間諸島

- 行田(2008)によると、アメリカ軍は3月26に阿嘉島、慶留間島、座間味島に上陸し、29には慶良間諸島全域を占領した。住民は日本軍に協力していた為に老人から少年まで軍の機密を知る立場にあった。そんな中、島外へ出ることができず、朝鮮人軍夫の虐待、スパイ嫌疑による住民虐殺などが発生した。この戦闘で慶留間、座間味、渡嘉敷の島々で日本軍の強制によって「集団死」が起こった。慶良間諸島で約700名の住民が集団死した。

○印がついた島で集団自決が行われた。地図にはないが、渡嘉敷の右に位置する前島では集団自決は行われていない。そこでは日本軍が上陸していなかった。



問題3 米軍の上陸と住民の様子

行田(2008)によると、3月27日に渡嘉敷島に米軍が上陸した。日本軍が作戦の秘密保持のために住民を統制していたため、米軍の上陸と同時にすべての住民は軍の陣地の近くへ集結させられた。また住民は村長の下に統制されており、自由な行動はできなかった。そして軍から命令が下り自決へ突入する。

行田(2008)における5つの証言の紹介

- 1 宮里哲夫(国民学校4年当時10歳)「校長先生夫妻が目の前で自決」
- 2 宮里美恵子(宮里哲夫さんの母)「集団自決から生き残って」
- 3 大城澄江(当時25歳)「座間味島特幹隊梅沢部隊と共に動いた」
- 4 金城重明(当時16歳)「愛するからこそ母親に手をかけた」
- 5 匿名「ある渡嘉敷部落住民の集団死に至る経過」

「集団死」をめぐる証言の重要性

- 教科書問題で「強制された集団自決」の記述が削除されたということから、沖縄戦で集団自決を目の当たりにした証言者の語りは沖縄戦の真実を語る大変重要であり貴重なものである。また、証言を記録することにより風化させず後世に語り継ぐという重要な使命があると考えられる。

目的

- 本研究の目的は、和光小学校沖縄旅行で収集した集団自決に関する証言記録（行田2008）を対象にテキストマイニングの方法により分析することにより、集団自決の体験者がその経験をどのように語っているかを具体的に明らかにすることにある。
- とりわけ語りの多様性に留意しながら貴重な体験をどう語っているかを分析する。

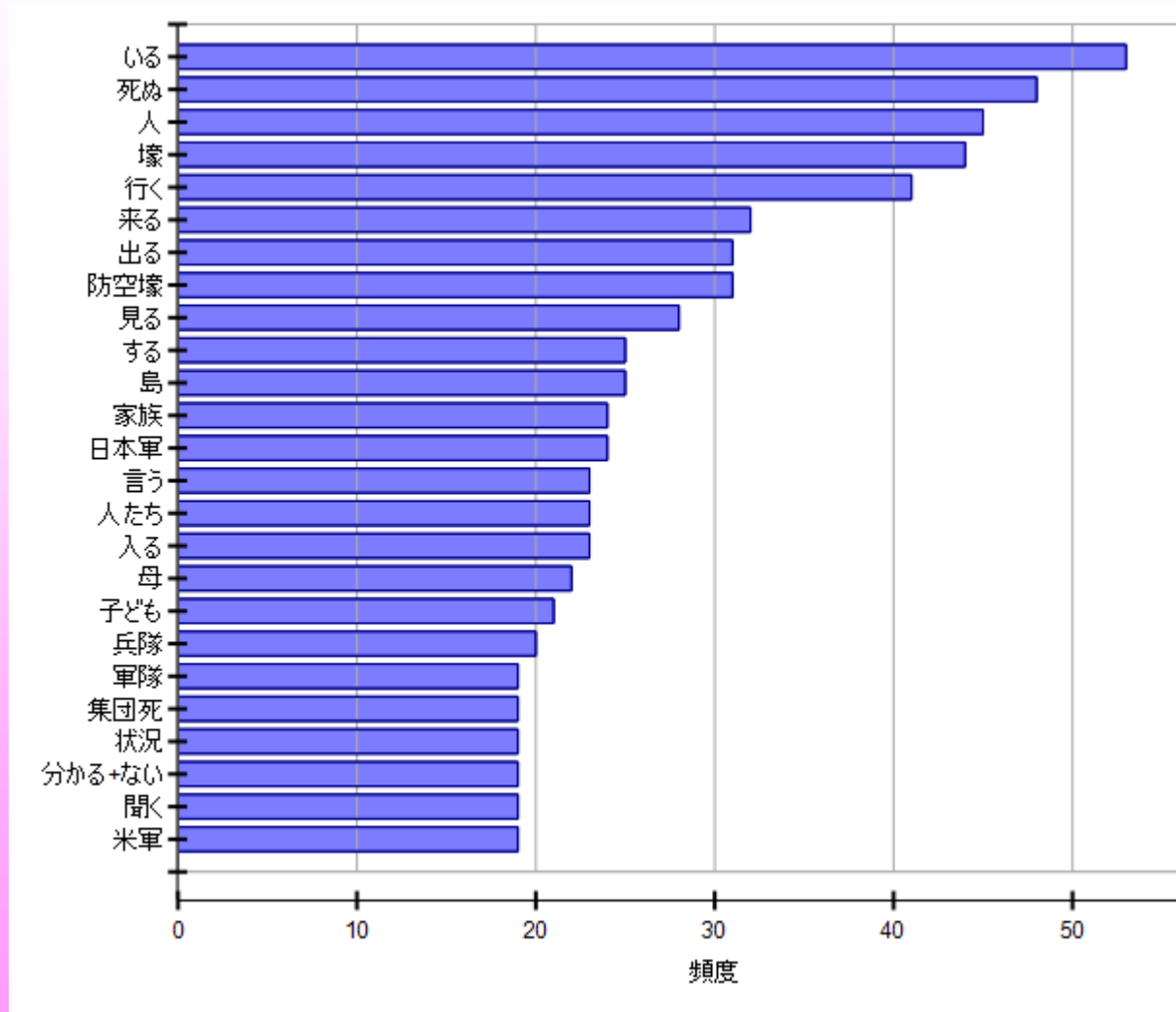
方法

- 分析対象 行田稔彦(編) 2008 生と死・いのちの証言 沖縄戦 新日本出版社P21～P80まで
- 分析方法 行田(2008)の5人の証言をテキストマイニングソフトTextMiningStudio Ver3.1により分析する。

基本情報

- 総行数,190
- 平均行長(文字数),107.3
- 総文数,1144
- 平均文長(文字数),17.8
- 述べ単語数,8213
- 単語種別数,2672

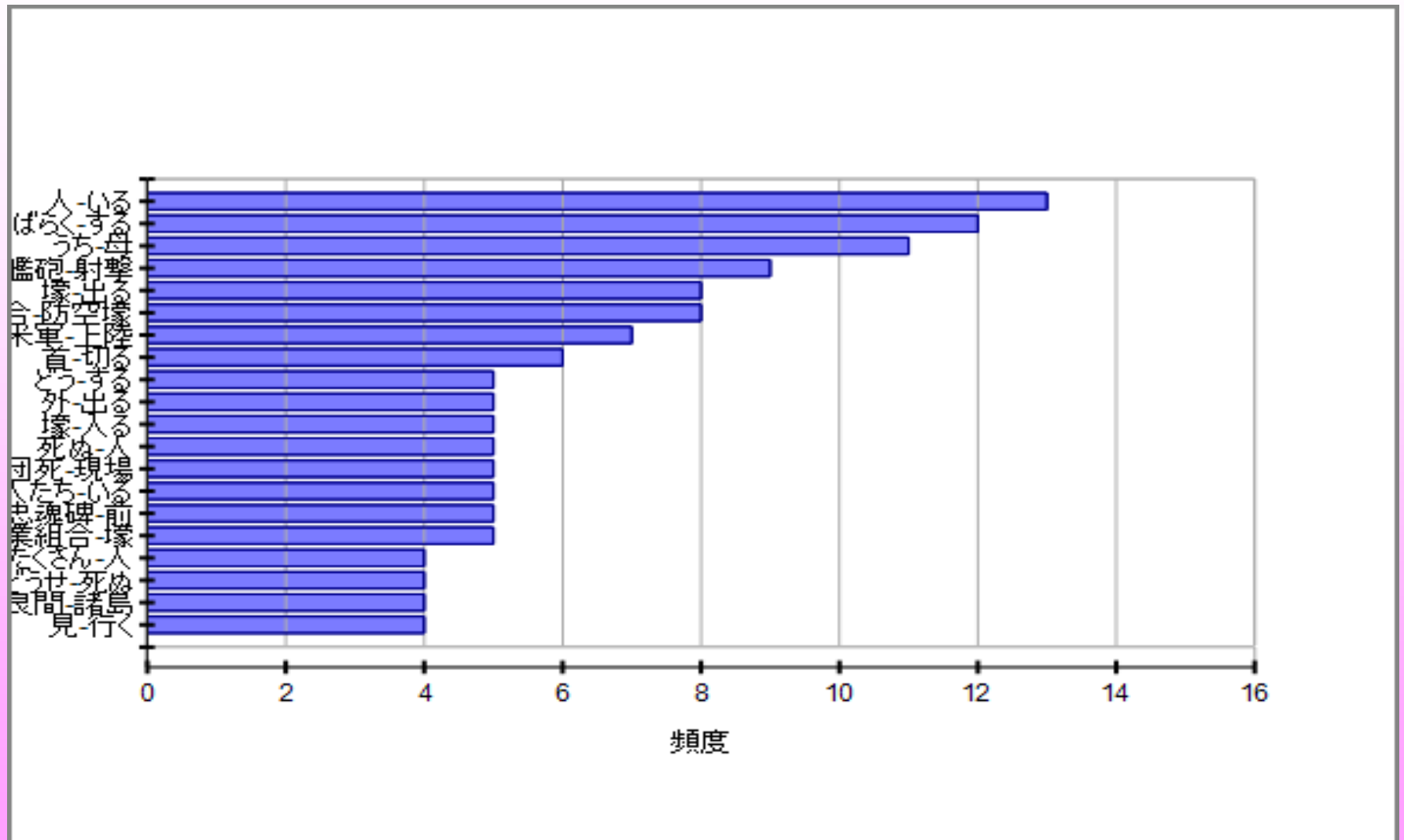
単語頻度分析



単語頻度分析

- 一番多かった単語は「いる」。二番目に「死ぬ」となった。～がいる、など人の死に関して言っているものが多いことが分かる。
- 特徴的なのは多い順に「死ぬ」「家族」「日本軍」「子供」「集団死」などである。

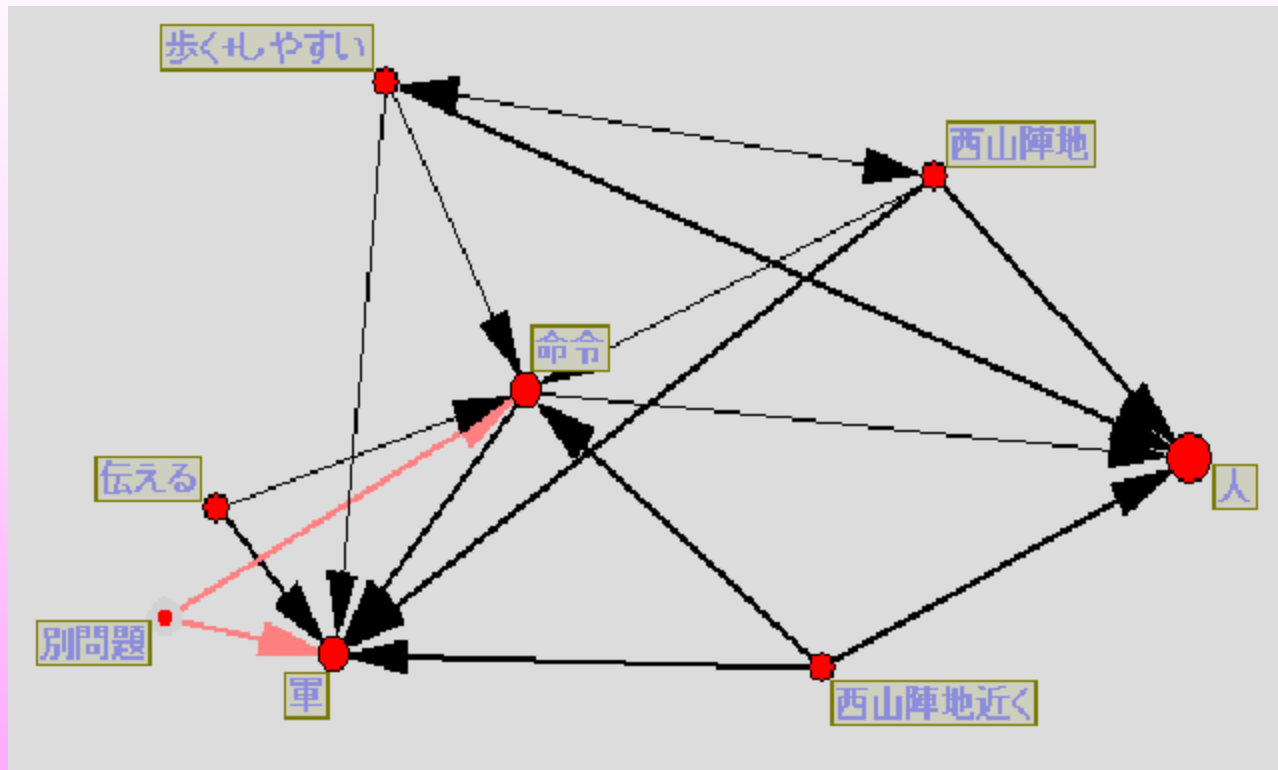
係り受け頻度解析



係り受け頻度分析の結果

- 係り受け頻度解析では「しばらくする」「艦砲射撃」など、攻撃やその様子が多く見られる
- 次に「首」「切る」、「集団死」「現場」、「どうせ」「死ぬ」など集団死の様子や現場に居合わせた事、戦争での証言者の精神状態が伺えた。

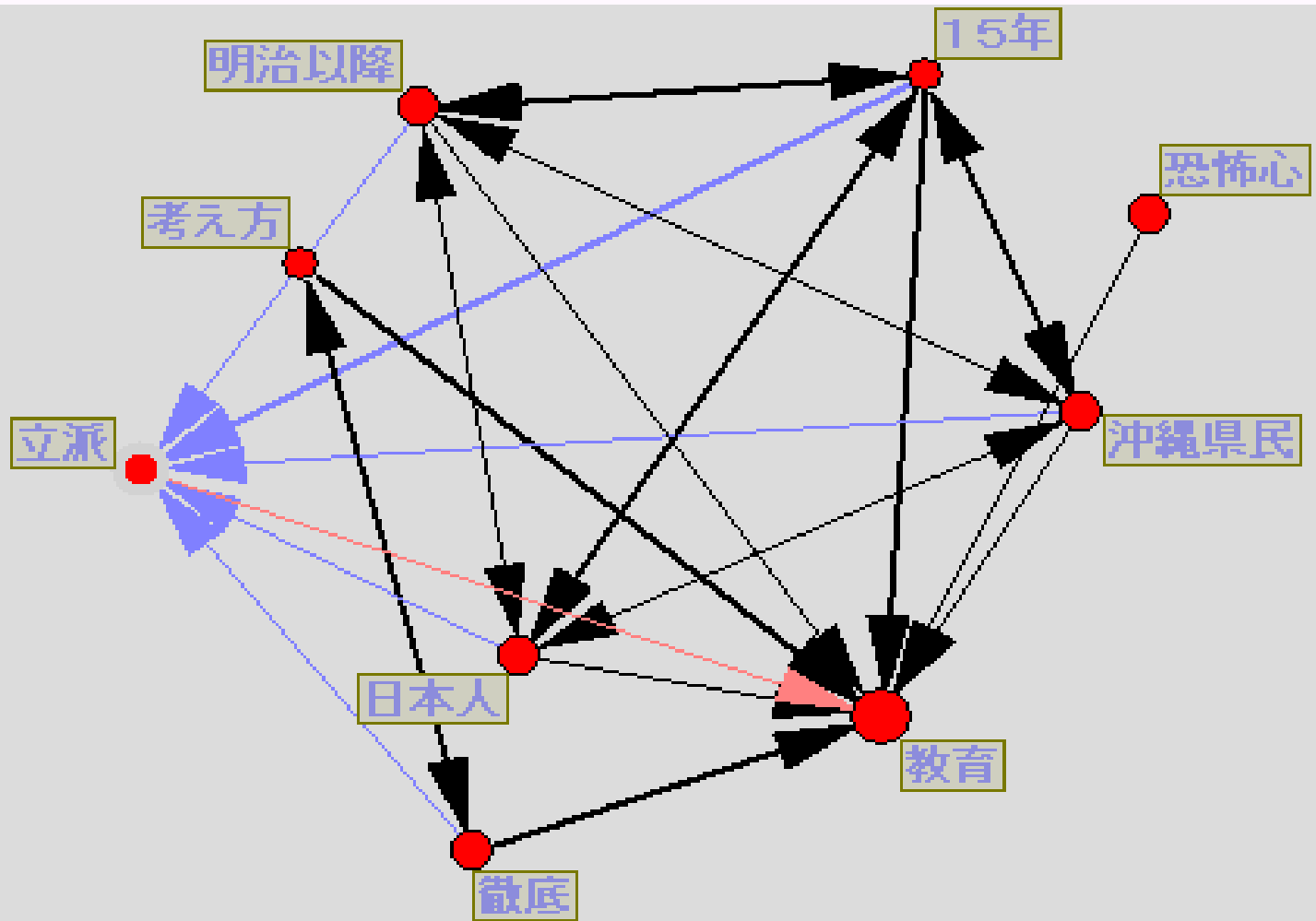
注目語「命令」



「命令」を注目語とした結果

- 「命令」に対して「人」「西山陣地」「軍」「伝える」「歩く+やすい」が多く証言されていることが分かった。

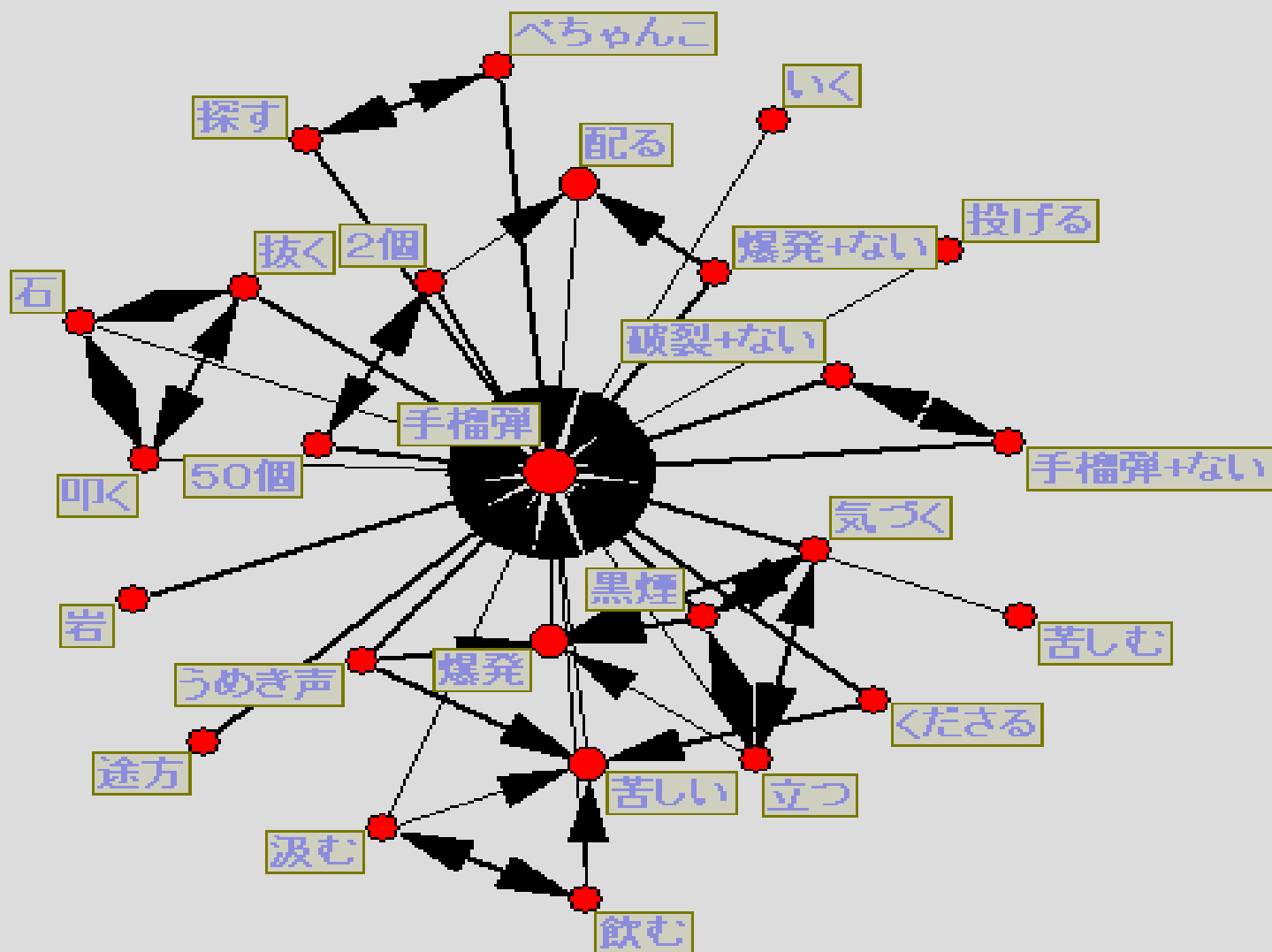
注目語「教育」



「教育」を注目語とした結果

- 敵に対する恐怖心と連合してる。たとえば、
- 宮崎哲夫は「集団死というのは、なぜおきたのでしょうか。アメリカ軍が上陸してきたら玉砕しなさい、捕虜になって辱めを受けるなというような教育がそうさせたんですね。」と述べている（原文参照）。
- 金城重明は「皇民化教育されてきたことに根底があると思います。表向きは立派な日本人、天皇の臣民になるという教育なんですけれども、その裏には天皇のために命を捧げることが名誉であり、立派な日本人になる道だということが入り込んでいるのです。」と述べている（原文参照）。

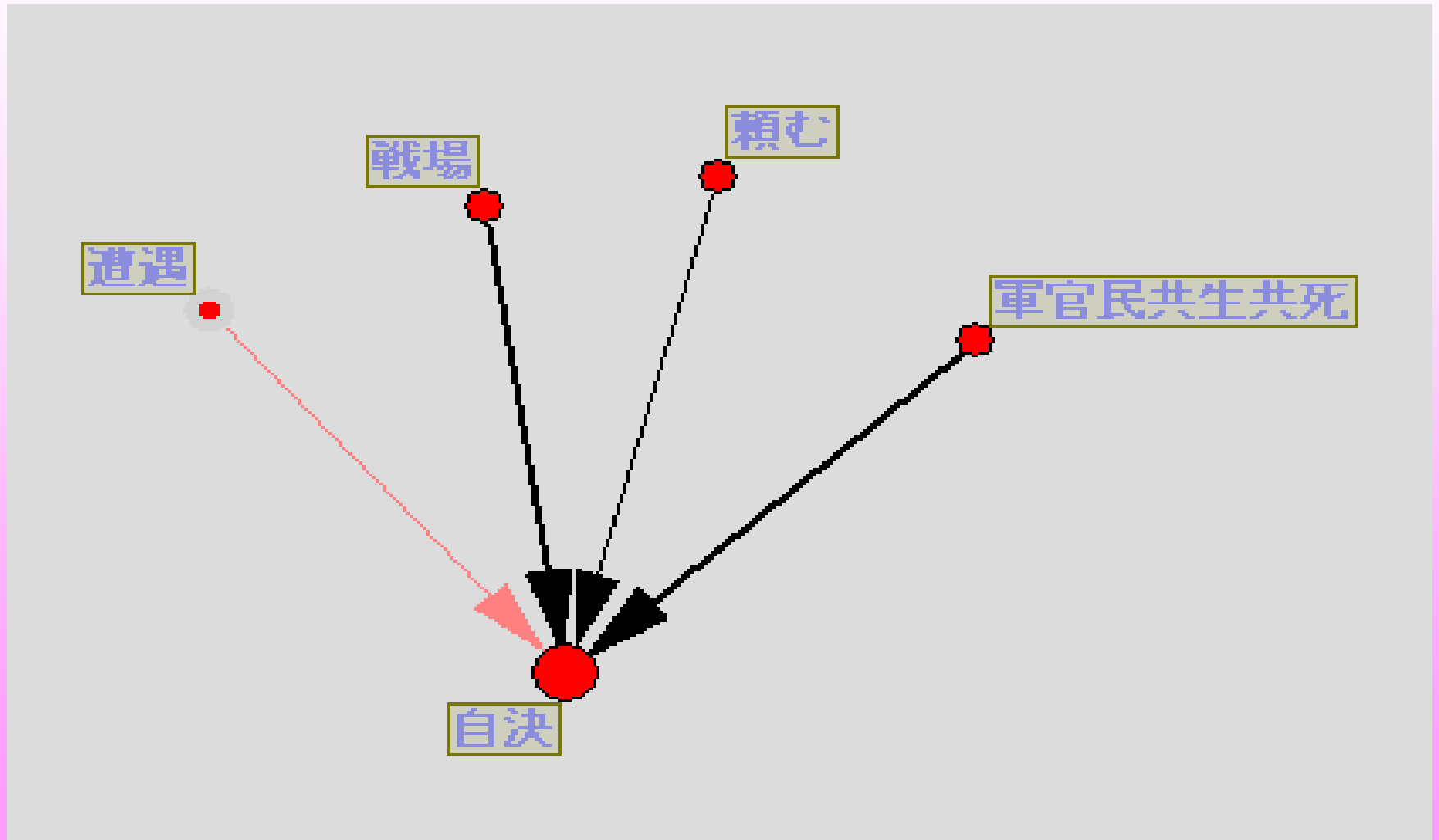
注目語「手榴弾」



「手榴弾」を注目語とした結果

- 「手榴弾」に対し、「爆発＋ない」「破裂＋ない」「手榴弾＋ない」や、「爆発」「苦しい」「うめき声」など爆発しなかった人や爆発に巻き込まれた人に多く別れたことが分かった。

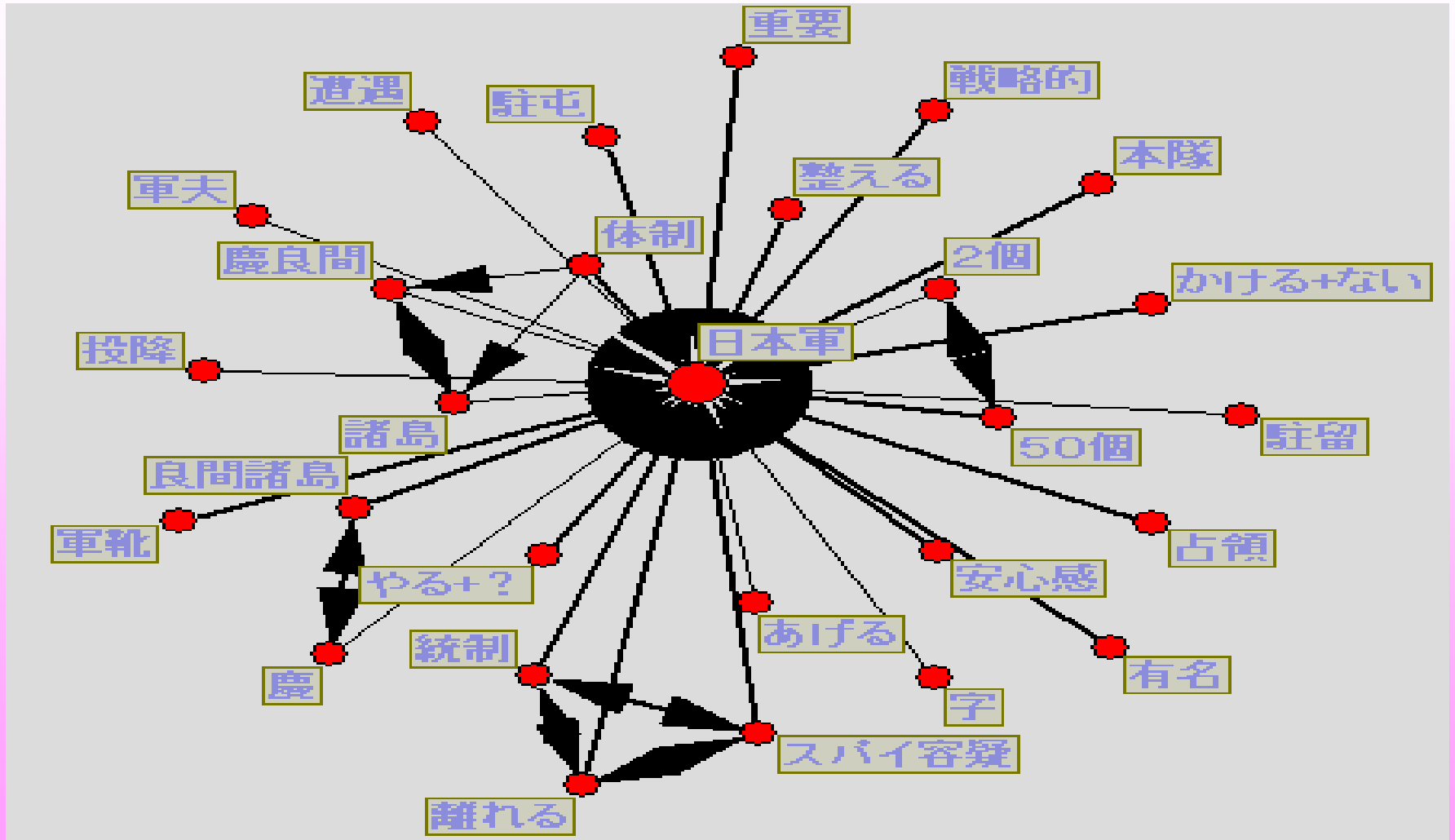
注目語「自決」



「自決」を注目語とした結果

- 「自決」に対し「軍官民共生共死」「頼む」「戦場」「遭遇」という言葉で証言されていることが分かる。
- 「頼む」と関連があることから自決の仕方も伺える。

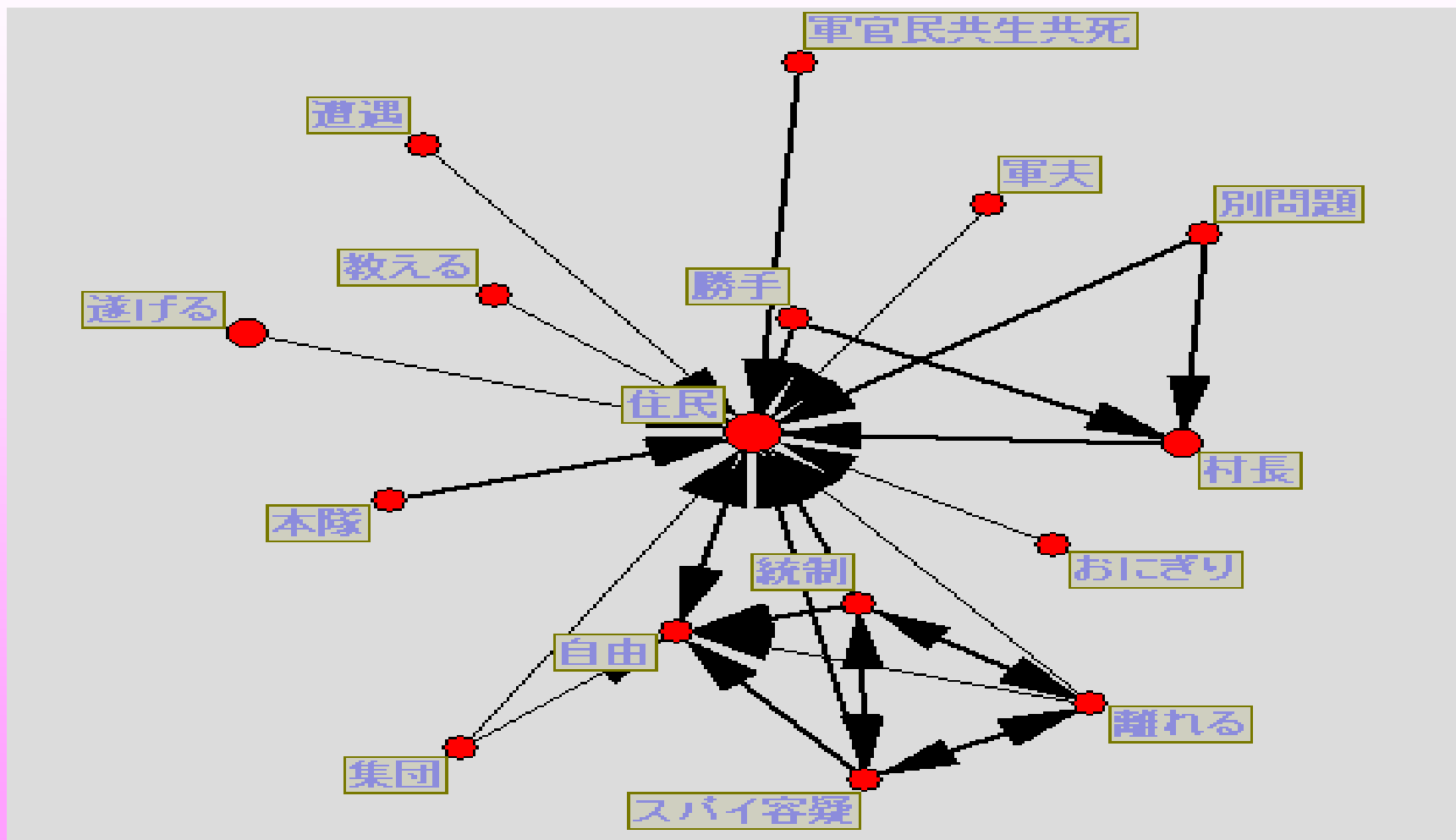
注目語分析「日本軍」



「日本軍」を注目語とした結果

- 「日本軍」に対し、「重要」「戦略的」「占領」「スパイ容疑」などが証言されていることが分かる。
- また、慶良間諸島で体験している証言者も多数いたことから、「慶良間」も多く証言されている。

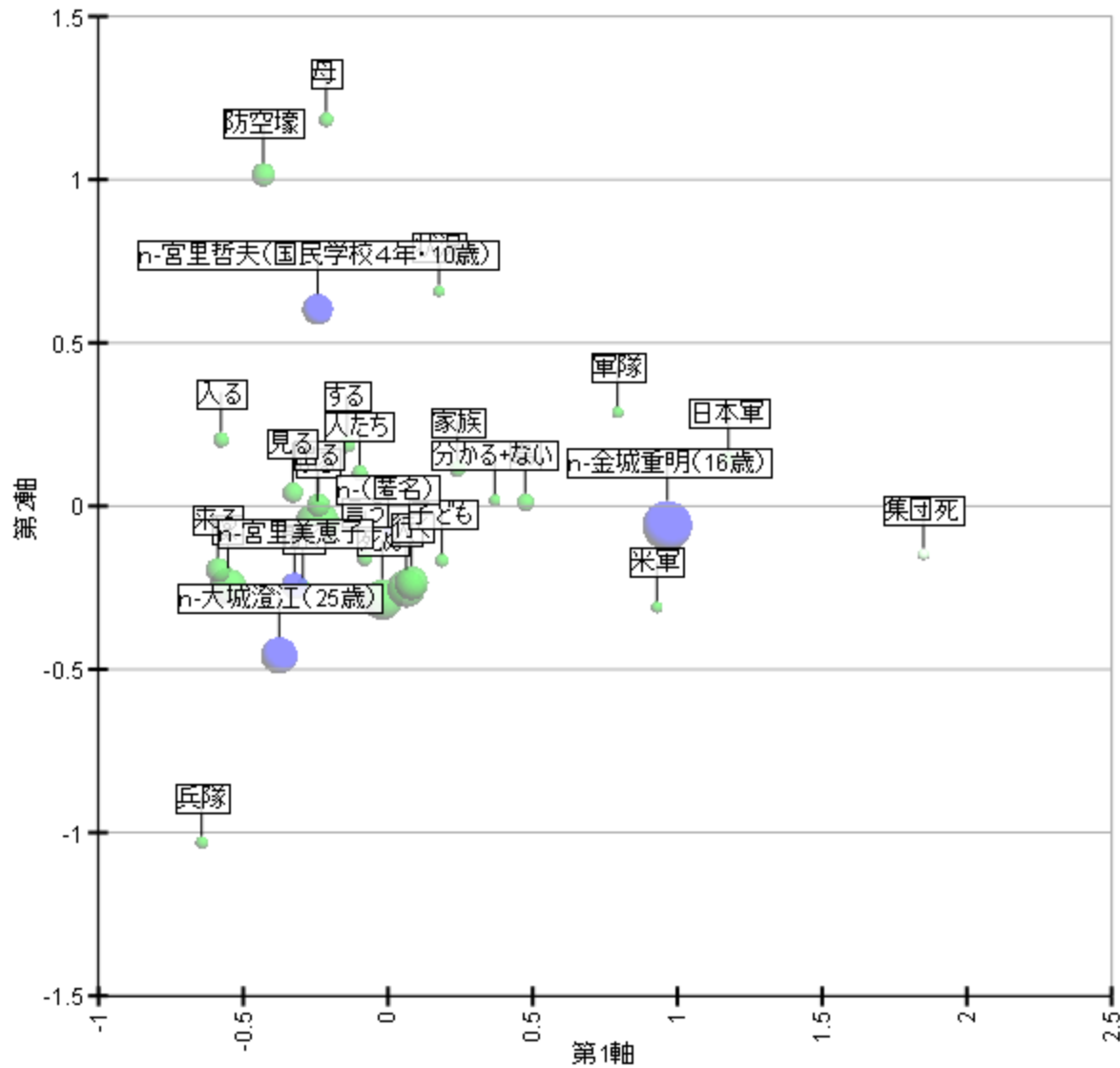
注目語分析「住民」



「住民」を注目語とした結果

- 「住民」に対し、「軍官民共生共死」「スパイ容疑」「村長」が証言されている。
- 「日本軍」の注目語分析でも「スパイ容疑」が出てきたが、住民と日本軍両方に「スパイ容疑」に関係する証言が述べられていることが分かる。
- 「住民」に対し「自由」が結ばれている。たとえば、金城重明は「住民は、村長の下に統制されています。自由に行動できませんでした。」と述べている。(原文参照)

語り手と単語の 対応バブル分析



対応バブル分析の結果

- 宮里哲夫さんの特徴は「防空壕」や「母」という単語を用いて証言している。大城澄江さんの特徴は「兵隊」を使用し証言している。金城重明さんの特徴は「軍隊」「日本軍」「米軍」「集団死」を使用し証言している。
- 宮里美恵子さんと匿名の方は「子供」「人たち」「来る」などを使い証言している。

5人の証言の特徴語分析

n-(匿名)	指標	n-宮里哲夫	指標	n-宮里美恵子	指標値	n-金城重明	指標値	n-大城澄江	指標値
集団自決	18.299	防空壕	43.03	壕	40.718	集団死	26.166	兵隊	29.132
山	12.279	母	32.916	子どもたち	14.806	日本軍	16.327	来る	24.869
現場	11.482	アメリカさん	21.373	農業組合	13.29	住民	16.028	わけさ	18.111
渡嘉敷	10.253	うち	19.829	役場	12.956	戦争	12.226	アメリカ	15.35
死ぬ	10.186	産業組合	19.43	家	12.081	非常	11.927	行く	12.81
空襲	9.639	状態	15.029	人たち	11.747	軍	11.556	初枝さん	12.677
いる	8.649	状況	14.798	組合	11.439	米軍	11.034	阿真	10.866
米軍	8.41	おじいさん	13.601	いっしょ	11.002	沖縄戦	9.766	逃げる	9.519
連れる	7.613	先生	13.086	外	10.231	軍国主義	9.766	整備中隊	9.055
人	7.545	入る	12.74	子ども	9.896	上陸	9.543	山	8.967
避難	7.306	おる	12.572	気	9.254	天皇	8.946	良い	8.658
言う	7.181	校長先生	12.572	死ぬ	8.995	軍隊	8.873	阿佐	8.503
弾	6.692	する	11.71	受ける	8.817	すねる	8.275	船	8.503
4日間	6.509	声	11.028	もの凄	8.714	意味	8.275	いる+ない	8.26
山羊	6.509	中	10.629	家族	8.585	起こる	8.275	下谷兵長	7.244
小屋	6.509	見る	10.166	大勢	7.84	死	8.275	番所山	7.244
焼夷弾	6.509	首	9.998	部落	7.403	皇民	7.455	米	7.244
駐屯	6.509	静か	9.715	集まる	6.966	遂げる	7.455	裏海岸	7.244
貯蔵	6.509	いる	9.588	父	6.966	村長	7.455	弾	7.001
豚	6.509	奥	9.2	あたる	6.864	渡嘉敷島	7.455	着く	6.692
爆発+ない	6.509	機関銃	9.2	引き返す	6.864		0		0

特徴語分析の結果

- 匿名の方は、集団自決や現場などを使っている。
- 宮里哲夫さんは、母(宮里美恵子)さんや家のこと、校長先生をよく使っている。
- 宮里美恵子さんは子どもたち、家などを使っている。親子ともにお互いを心配しているようだ。
- 金城重明さんは集団死、日本軍、軍国主義などを使っている。
- 大城澄江さんは兵隊、アメリカ、整備中隊などを使っている。

考察1：結果のまとめ

- 特徴語分析、対応バブル分析により、各証言者がそれぞれほかの証言者とは違う話をしているということが分かった。
- また、「住民」「自決」の注目語分析で「軍官民共生共死」が出てきた。住民と自決にこの考え方が深く関わっていると考えられる。たとえば、金城重明「軍官民共生共死ですから、敵に遭遇したら日本軍が敵に攻撃をかけて、そして住民は最後には「自決」を遂げるという思いはありました。」(原文参照)と述べている。

考察2： 5人の語りの多様性

- 5人の特徴語分析より、同じ集団死を語るのでも5人それぞれ語る内容が違うのが分かった。
- 宮里さん親子はお互い家族のことや自決現場について語り、金城重明さんは日本の教育や政治背景について語っている。大城澄江さんは兵隊たちと行動していたので兵隊の行動を多く語っている。

考察3: テキストマイニングから見た 「集団死」

—無念の死と無残な生—

- 集団死で一番特徴的なのは生と死どちらを選んでも地獄だったということだと考える。
- 金城(1995)から、「なんとも哀れだったのは、自分の子供たちを殺し生き残った父母らである。彼らは後悔の念から泣き崩れた。自分の娘を殺した老人は、よその娘が生き残り手厚い保護を受けている姿を目にし、咽び泣いた。」とある。彼らは自分のしてしまった行為や自分だけ生き残ってしまったことへの強い後悔を抱えながら生きていくのだ。

考察4：本研究の意義と限界

- 本研究の意義は集団自決を体験した人の語りと向き合えることだと考える。それにより戦争の悲惨さや集団自決の実態を知ることができ、自分自身が後世に語り継ぐ事へと繋がっていくと考える。
- 本研究の限界は集団自決の証言者が高齢によりこの世を去ってしまう点だと考える。教科書問題もあり、真実の声を挙げる人が少なくなってしまうのではないかと考えた。

考察5： 私の沖縄学習旅行の経験から

- 沖縄学習旅行で証言者の方が実際に集団自決に遭遇したガマ(洞窟)に証言者の方と共に入ることができた。奥に進むと同行してくれた証言者の方が「私はまだここまでしか行くことができないの。」と言った後、ずっとガマの奥のほうを見つめて「みんなごめんね。」と呟いて手を合わせている姿がとても印象的だった。



まとめと今後の課題

- 「集団自決の」体験でも一人ひとりさまざまな立場があって、体験をしていることが分かった。
- 今後の課題は沖縄本島での自決の証言と渡嘉敷の証言との違いを見てみたいと考えている。また、分析結果をうまく読み取れるようになりたい。

参考文献

- 行田稔彦(編) 2008 生と死・いのちの証言
沖縄戦 新日本出版社
- 金城重明 1995 「集団自決」を心に刻んで 高文研
- 荒井信一 2001 母と子で見る 54 20世紀
の戦争 沖縄地上戦 草の根出版会